# 第７回光量子センシングワークショップ

## 量子もつれで拓く新しい光センシング・赤外光子検出の未来
## ～ Q-LEAP プロジェクト 10 年の成果 ～

量子技術を利用した計測・センシング技術は近年大きな注目を集めています。2018 年に始まった文部科学省による「光・量子飛躍フラッグシッププログラム（Q-LEAP）」の基礎基盤研究グループの活動の一環として、**産業界や大学等の若手研究者・技術者をはじめ幅広く光量子センシングに理解を持って頂く**ために本ワークショップを毎年実施しています。第 7 回目となる今回は、**「量子もつれで拓く新しい光センシング・赤外光子検出の未来 ～ Q-LEAP プロジェクト 10 年の成果 ～」**のテーマで、本グループの 4 つの研究チームの代表者からこれまでの研究成果をご紹介いたします。ご参加を検討願います。

**日時**　2026 年 11 月 27 日（金曜日）　13:00～16:00

**会場**　ハイブリッド開催
- 現地会場　：京都大学桂キャンパス　桂ホール（B クラスター　事務管理棟 1 階）
  https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r-k
- オンライン：Zoom 会議

**参加費**　無料

**申し込み**　https://forms.gle/xUDu8wMMj6zp37ik6
11 月 20 日締切。定員 80 名（現地）、300 名（オンライン）程度。
※定員になり次第、申し込みを締め切ります。
※講演者への質問は現地参加を優先とします。

**プログラム**

・開会 13:00　主催者挨拶　京都大学大学院工学研究科　教授　竹内繁樹
来賓挨拶　Q-LEAP プログラムディレクター／東京大学 名誉教授　荒川泰彦
文部科学省量子研究推進室　室長　立松慎也

・講演 13:10　京都大学大学院工学研究科　教授　竹内繁樹
「量子もつれ光が、光計測の限界や未来を変える
－Q-LEAP プロジェクト 10 年の到達点」

14:00　島津製作所　主任研究員　徳田勝彦
「光センシングを支える量子もつれ光子発生光源」

（休憩）

14:50　京都大学高等研究院　特定拠点教授　田中耕一郎
「赤外量子光の発生・評価とテラヘルツ領域への展開」

15:25　情報通信研究機構　上席研究員　寺井弘高
「超伝導ナノワイヤを用いた中赤外光子検出技術」

16:00　閉会

**主催**　京都大学大学院工学研究科電気電子デジタル理工学専攻光量子情報工学分野、京都大学大学院工学研究科附属光量子センシング教育研究センター

**共催（予定）**　京都大学成長戦略本部、京都大学総合研究推進本部、京都大学大学院工学研究科、京都大学光量子センシング社会実装コンソーシアム、京都大学卓越大学院プログラム先端光・電子デバイス創成学、京都大学大学院教育支援機構 SPRING プログラム（量子分野）、株式会社 TLO 京都、公益財団法人京都高度技術研究所

**後援（予定）**　公益社団法人応用物理学会、公益社団法人日本分光学会、一般社団法人日本赤外線学会、一般社団法人日本光学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人電子情報通信学会

**ホームページ**　https://photonsensing.org/irqas/workshop/seminar07.html

**連絡先**　京都大学大学院工学研究科　加賀田　075-383-2289
ku-qleap-ws@qip.kuee.kyoto-u.ac.jp